

土砂災害に備えて

大雨や地震時に備えて、土砂災害警戒区域や避難場所を確認しておきましょう

適切な避難で
水害・土砂災害から
命を守る

基本の考え方

- ① 避難とは難を避けることです。安全な場所にいる人は避難場所に行く必要はありません。
- ② 安全な場所にある親戚・知人宅なども避難先として検討してください。感染症拡大防止の観点からも重要です。
- ③ 危険な状況になる前に安全な場所へ移動してください。

雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報・予報・警報等入手しましょう!!

- テレビラジオ等で気象情報を確認しましょう
- 雨が強くなってきたら、電話やインターネットで確認しましょう

宇都宮地方気象台

<https://www.jma-net.go.jp/utsunomiya/>

栃木県内の警報や注意報、気象情報等の防災情報、天気予報を発表しています。公式ホームページ閲覧以外に、自動音声対応の電話でも情報を確認できます。

177天気予報電話サービス…電話 028-177 (自動音声)

自動音声による気象情報……電話 028-638-4444

(天気予報、宇都宮と中禅寺湖畔の実況)

とちぎリアルタイム雨量河川水位観測情報

<https://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/>

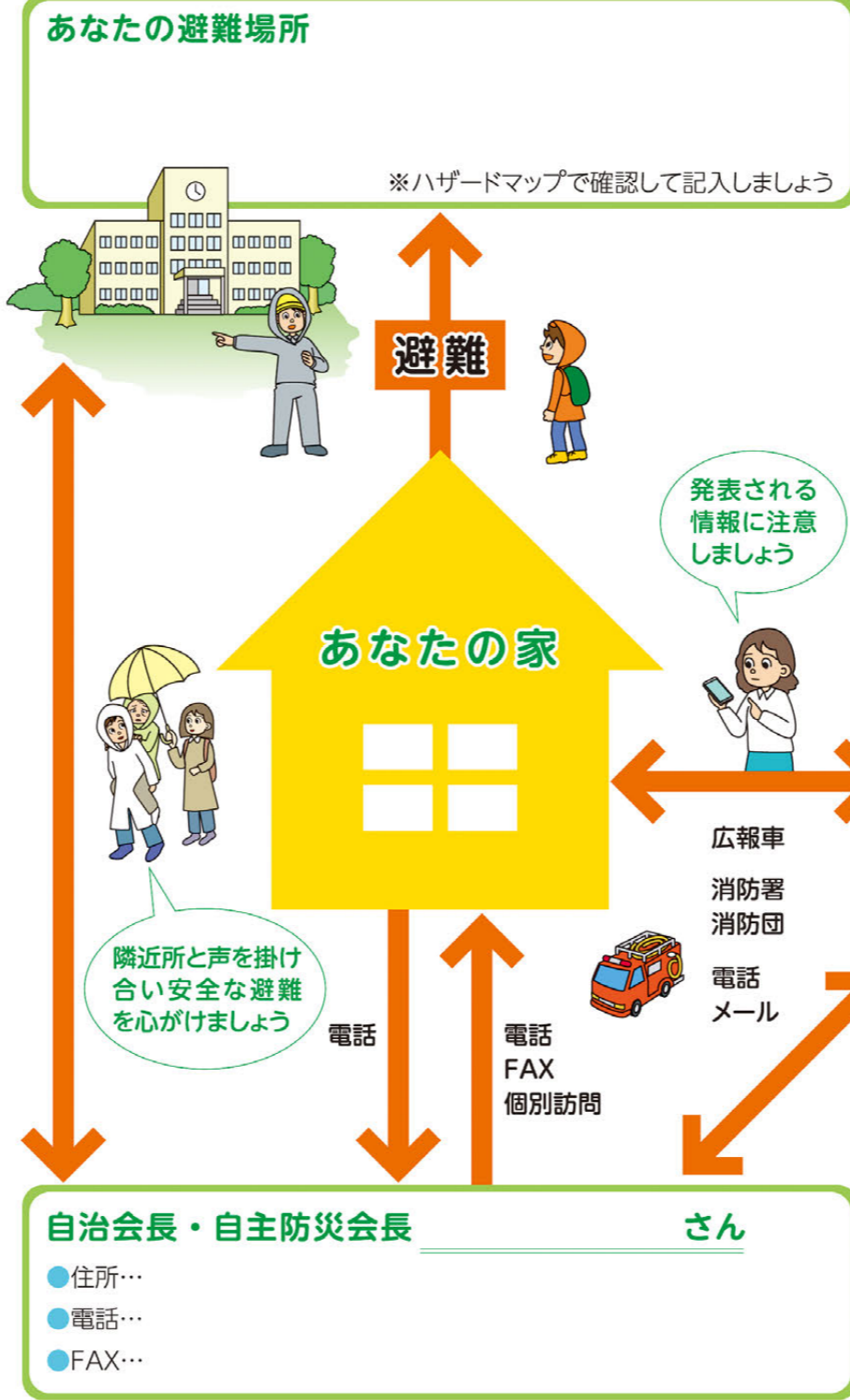
ホームページで栃木県内の雨量(速報)や河川の状況の情報を入力できるほか、電話で1時間毎の河川水位・雨量情報を確認できます。

宇都宮土木管内…電話 028-643-2451 (約3分間。通話料金は利用者負担)

とちぎ土砂災害警戒情報

https://www.dif.pref.tochigi.lg.jp/dosya_keikai/

栃木県全域や市町を選択して、警戒情報および大雨警報・注意報を確認できます。



避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)		
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	浸水の情報 (河川)	土砂災害の情報 (雨)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~<警戒レベル4までに避難!>~~~~~						
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2相当	氾濫注意情報	---
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当	---	---

市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

## 宇都宮市

### メール配信サービス(防災)に登録を

宇都宮市では、メール配信サービスを行っています。配信内容は防災情報や消防出動情報などで、希望する内容を選んで登録できます。メール配信を希望する人は、お使いの携帯電話からインターネットで市の携帯電話用ホームページに接続し、案内にしたがってメールアドレスを登録してください。(登録料・情報提供料は無料。通信費用は利用者負担)

【配信サービス内容(一例)】

- 防災気象情報 (注意報や警報など)
- 避難指示等の避難情報
- 河川の情報(水位など)
- 避難所の開設情報

市の携帯電話用ホームページ  
<http://utsunomiya.mwjp.jp/mobile/index.cgi?page=642>

2次元バーコード対応機種はこちらから→

前兆現象を見つけたら直ちに市役所・自治会長などに連絡しましょう。また、危険を感じたら隣近所声を掛け合って自主避難してください。

### 急傾斜地の崩壊 (がけ崩れ)

- がけに割れ目が見える
- がけから水がわき出ている
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる

### 土石流

- 急に川の流れが濁り流木が混ざっている
- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

### 地すべり

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水が噴出する

## 家族等の緊急連絡先をメモしておきましょう

持病や血液型、常用薬等について書いておくと、緊急のときに役に立ちます。

### 雨の強さと災害の発生状況

1時間雨量	人がうけるイメージ	災害発生状況
10~20ミリ	ザーザー降る	長時間にわたって降り続く時は注意が必要。
20~30ミリ	どしゃ降り	側溝・下水・小河川等があふれ、小規模ながけ崩れが始まる。
30~50ミリ	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・がけ崩れが発生しやすくなり、危険箇所では避難準備が必要。
50~80ミリ	滝のように降る (ゴォーと降り続く)	土石流等が発生しやすくなり、道路等の冠水などが起こりやすい。多くの災害が発生する。
80ミリ以上	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる	大規模な災害が発生するおそれがあり、厳重な警戒が必要である。